

岐阜農林事務所の普及活動状況

令和元年11月26日現在

今月の重点活動

■スマート農業 ロボットトラクターで小麦の作業を実施

瑞穂市にある(農)巣南営農組合では、国のスマート農業実証プロジェクトにて、水稻と小麦を組み合わせた3年5作体系による超低コスト栽培に取り組んでいる。

11月6日、組合オペレーターとJAぎふ、農業普及課にて小麦播種計画と併せ、ロボットトラクターによる作業工程を検討した。

結果、これまで人手不足のため出来ていなかった播種前耕起をロボットと有人トラクターの協調作業で効率的に行い、小麦の発芽を促すこととした。今年は約30haの小麦を作付け予定であるが、病害虫防除や収穫作業においても、スマート農業機械を活用する計画である。

農業普及課では、小麦の生育調査や栽培指導と並行して、麦作におけるスマート農業技術の実証に取り組む。



【ロボットと有人トラクターの協調作業で効率アップ】

(地域支援第三係・松本政行)

新たなブランドづくり

■冬にんじん 出荷説明会が開催される

各務原市園芸振興会にんじん部会では、11月15日から冬にんじんの出荷が開始となることから、同日、JAぎふ各務原にんじん選果場において出荷説明会を開催した。

説明会には生産者44名が出席し、全農岐阜中京市場駐在、関係市場から販売情勢、JA選果場担当者から出荷規格等の説明があった。農業普及課からは、本年度の気象状況を踏まえ今後の栽培の注意点等について資料を交えて説明した。

農業普及課では、冬にんじんの安定生産・安定出荷に向け、肥料試験などを実施しており、調査データに基づいた支援を今後も行う。



【出荷説明会の様子】

(地域支援第二係・水川 誠)

多様な担い手づくり

■担い手 新規就農者と農業者との情報交換会を開催

岐阜地域農業改良普及事業推進協議会では、11月26日にシンクタンク庁舎大会議において、「岐阜地域農業担い手情報交換会」を開催し、新規就農者と農業担い手リーダーや生産団体役員等のベテラン農業者ほか、関係機関など約70名が出席した。

当日は、今年の新規就農者を紹介したあと、就農5年までの農業者2名が、農業者になって感じたことや今後の経営展望などについて事例発表を行った。

講演会では、税理士法人成和の渡邊次長から「農業経営者を取りまく法制改正」と題して消費税や相続について話があり、新規就農者だけでなく、ベテラン農家や関係者にもたいへん参考になった。

終了後には交流会も開催され、お互いに農業をがんばろうと新規就農者とベテラン農家の会話が弾んでいた。



【新規就農の自己紹介】

(地域支援第一係・山田和彦)

■えだまめ、ほうれんそう 家族経営協定調印式の開催

11月6日、JAぎふ島支店において、岐阜市内でえだまめやほうれんそうなどを営む農家が後継者の新規就農をきっかけに、家族経営協定の調印を行った。

当日は、岐阜農林事務所長、岐阜市農業委員長、ぎふ農業協同組合営農部長、岐阜市農林部長が立会人となり協定書に調印し、お祝いの言葉を述べた。

農家ではこの協定をきっかけに、各自の役割や働き方を明確にし、経営計画や生活設計の樹立を目指す。

農業普及課では、今後も市町やJ A、農業委員会等と連携し、家族経営協定の推進を図ると共に、農家の農業経営改善や産地の発展につながるよう支援していく。

(園芸産地支援第一係・高井 啓)



【家族全員が出席し、
調印式を開催】

■いちご 第2回いちごトークセッション開催

11月5日、農業普及課とJ Aぎふにて、いちご生産者を対象とした「いちごトークセッション」を実施した。

昨年に引き続き2回目の開催で、今回は「私の作業の進め方、工夫」をテーマにして、参加者が3グループに分かれ自身の栽培管理や収穫・調製作業等のやり方について討論を行った。

普段、他の生産者がどの様に作業しているか、なかなか知ることにはできないが、トークセッションで参加者の工夫や苦勞を聞くことができ、自らの栽培管理や作業の進め方を見直すきっかけになった。特に、新規就農者には学ぶことが多かった。

農業普及課では、J Aぎふと協力して各グループの討論内容は今後まとめて冊子とし、管内のいちご生産者全員に配布する予定である。

(園芸産地支援第一係・菊井 裕人、園芸産地支援第二係・三和 浩一)



【グループ討論のあとに
全体で総合討議】

売れるブランドづくり

■小麦 タマイズミR拡大実証ほの播種作業を実施

11月5～7日、岐阜市内の(株)七郷営農と(有)合渡水田夢クラブの2経営体にて、新たに普及を目指す小麦のタマイズミR拡大実証ほ約8haの播種作業が行われた。

拡大実証ほでは、現在の普及しているタマイズミと同等のタンパク質含量となるよう、基肥を通常使用しているセラコートR25からセラコートR2530に変更している。

実証ほの小麦は、来年6月ごろ収穫し、実需者により製粉性や加工適性等の確認が行われる予定である。

農業普及課では、タマイズミからタマイズミRへの品種切り替えに向けて、生育調査や現地指導を行い地域での普及を進める。

(地域支援第一係・小島康平)



【順調に播種作業終了】

■秋冬ブロッコリー 秋冬ブロッコリー目揃え会の開催

11月12日にJ Aぎふ北方支店において、J Aぎふブロッコリー生産連絡協議会の目揃え会が開催された。

全農岐阜の担当者から出荷計画と販売方針、J Aぎふの担当者からは出荷要領について説明があった。

農業普及課からは、今後の栽培管理と収穫および選果の注意点について説明した。今年は天候の影響による生理障害の発生が心配されたが、現在のところ生育は順調で品質の良いものが収穫される見込みである。

農業普及課では、今後も生育調査等のデータ提供を通じ、高品質なブロッコリー生産につながるよう支援を行う。

(地域支援第一係・鈴木郁子)



【出荷前に目揃え会を開催】